



▲改元の節目に安来の良さを再発見してほしいと企画された創立30周年記念展の様子。

安来の文化を顕彰し続けて30年 創立30周年の安来市文化協会

一方、原会長は「会員拡大が急務」と課題を話します。同協会は設立時から自主自立が基本方針。運営を続けるには会員増が必要で、「作家やものづくりをしない人

で開催されました。同協会は平成31年4月で創立30周年。今回の企画展を第一弾として、(仮)郷土作家展、

「平成2年に活動を開始した同協会は年間を通じてさまざまな事業に取り組んでいます。寛次郎が安来出身芸術家の周年事業をはじめ、活躍中の作家の展示、地元高校と連携した企画、講演会、見学会など活動は幅広いです。また、奇数月に発行する会報「文化やすぎ」は最新号が第172号と、30年にもわたる活動を物語っています。

も、趣旨に賛同してくださる方の加入は大歓迎」と呼びかけます。

節目を迎え今後の活動について原会長は、「地元出身の偉大な芸術家たちの継承を行っていききたい。次の世代に伝わっているかが心配です。だから、伝えていくことが義務」と語りつつ、「明治時代、事業家たちがサロンを形成し、老若男女が参加する勉強会や若い芸術家たちの支援などを行っていました。そこから河井寛次郎や米原雲海など全国で活躍する芸術家たちが育っていききました。安来にはそういう気風があります。安来市文化協会もそれに近いような場になればと思っています。」

も、趣旨に賛同してくださる方の加入は大歓迎」と呼びかけます。



▲安来市文化協会の原会長。会員数は127人(4/1現在)。事務局は観光交流プラザ2階(☎23-1507)にあります。



「安来の文化の黎明期である明治・大正時代を振り返り、これからの安来の未来を考えるために企画しました」。安来市文化協会創立30周年記念展での原庸一会長のあいさつです。若い芸術家たちを支援した実業家たちを取り上げた「並河理二郎とゆかりの芸術家展」は、4月20日からさんそ学習館ケイオス(亀島町)で開催されました。

(仮)現代作家展と立て続けるに会場を替え、展示を行う予定です。

編集後記

▼4月末から5月初頭は10連休があった一方で、6月はなんと祝日がありません。広報紙発行のことを考えると、編集の時間がとれるので祝日はない方がうれしいところ。ただ、休みがないのもさみしく思います。これは良いような悪いような。複雑な思いを持ちながら6月を迎えることになりそうです(旬)

安来市の人口と世帯数 H31.4.30現在

人口合計 / 38,707人
(男:18,583人 女:20,124人)
世帯数 / 14,391世帯



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

- 資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています。
- 広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
- 自治会宛の発送等につきましては、地域振興課(☎23-3067)までご連絡ください。